

令和6年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二学校（ E 組 ）

目指す授業		○ 基礎的・基本的な学力を定着させる授業 ○ 主体的に学ぶ姿勢を育て、幅広く知識・技能を身に付ける意欲を引き出すとともに、思考・判断・表現する力を育てる授業		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○漢字が定着しておらず、文を円滑に読めないことがある。 ○書くことに対して苦手意識をもつ生徒が多い。 ○話すことに対して意欲はあるが、スキルが身に付いていない。	○毎授業で漢字学習を行う。また、短文作成や漢字テストなどを通して、覚えた漢字をアウトプットする回数を確保する。 ○作文課題では、タブレットを用いて、負担なく文章を作成できるよう手だてを講じる。また、文の構成に見通しをもって書くことができるよう、個に応じて文章の型を示す。 ○短い内容、小さな空間で話すことから始めるなど、スモールステップを踏んだ学習内容を設定する。	○短文作成や漢字テストを通して、読める漢字の量が増えたが、定着がまだ不十分である。取組を継続し、より定着を図る必要がある。 ○タブレットを用い、文章を修正しやすくすることで、書くことに対する苦手意識が軽減された。 ○スピーチやグループ発表の場では、スモールステップと十分な準備時間により、適切に話すことができた。しかし、長い内容に対するスキルは不十分な部分もあったため、取組を継続し、スキルの定着を図る必要がある。	
	○基本的な知識・技能の定着が不十分である。 ○事象を数理的に捉え、表現・処理する技能が身に付いていない。 ○計算することに対して苦手意識をもつ生徒が多い。	○個の学習状況に応じて難易度の異なるプリントを段階的に用意し、繰り返し取り組む機会を作る。 ○具体的な場면을提示し、情報を整理して考察する時間を設ける。また、前時に学んだ内容を授業の初めに振り返る。 ○基礎的な計算から段階的に取り組み、スモールステップで達成感を感じさせながら学ばせる。	○基礎を定着させながら、次のステップに進むことができた。 ○具体的な場면을イメージして、問題解決の手順や、論理的な思考方法を冷静に考える生徒が増えた。前時の内容と一貫性をもって、授業に取り組む生徒が増えた。 ○自分に合った目標を達成する成功体験が積み重なり、自信をもって前向きに取り組むことができた。	
算数・数学				